

## 建設環境委員会行政視察報告書

令和元年11月19日

狭山市議会議長  
加賀谷 勉 様

建設環境委員会  
委員長 千葉 良 秋

当委員会は、下記の通り、岐阜県各務原市及び岐阜県高山市を視察して参りましたので、その概要について報告します。

### 記

日 程 令和元年10月3日（木）～10月4日（金）

- 視察事項
- 1 岐阜県各務原市  
高温ガス化溶融炉・リサイクルセンターについて
  - 2 岐阜県高山市  
高山駅周辺土地区画整理事業について

参加者 千葉 良 秋 福田 正 高橋ブラクソン久美子  
土方 隆 司 猪 股 嘉 直 大 島 政 教  
加賀谷 勉

同行者 西久保 雅一 都市建設部次長

随行者 佐藤 宏 毅 担当書記

## 各務原市

【市政施行】 昭和38年4月1日

【人口】 147,790人（令和元年9月1日現在）

【面積】 87.81km<sup>2</sup>

【市の概要】 岐阜県の南部、濃尾平野の北部に位置し南部には木曾川が東西に流れ、愛知県との県境になっている。名古屋から30km圏に位置し、輸送用機器、航空宇宙産業を中心に工場が集積している。製造品出荷額県内第一位の内陸型工業都市である。また、市の中央部には面積約400万m<sup>2</sup>の航空自衛隊岐阜基地がある。

### 【調査概要】

今回の調査は、多くの自治体において抱える「ごみ処理行政の課題」について、先進的取り組みを行っている各務原市北清掃センターの、建設の経緯、建設施設及び処理施設の概要を調査するとともに、ダイオキシン類削減をはじめとする環境保全対策及びリサイクル施設事業について視察調査を行ったものである。

### 【視察内容】

#### 1) 建設経緯

旧施設の老朽化により処理能力の低下及び平成14年12月施行のダイオキシン類基準値を満足すること、最終処分量をできるだけ削減することを目的に、平成9年10月新炉建設の方針を決定した。その後、ごみ処理の新技术・施設の先進的事例について、数多くの現地研修を行うとともに各方式の技術的特徴や、本市のごみ処理課題への適合性を検討し、直接溶融方式、コークスベッド方式を採用。平成12年4月、コンペ方式により、日本鋼管株式会社をメーカーとして決定した。

(主な経過)

平成9年10月 新炉建設方針の政策決定、市議会に説明

平成10年5月 地元代表者、地元全世帯を対象に説明会を開催

平成11年3月 ごみ処理施設整備基本計画等を策定

平成12年5月 日本鋼管名古屋支社と本契約

平成12年9月 起工式

平成14年9月 火入れ式

平成14年10月 ごみ負荷による試運転開始、12月本格的稼働運転開始

平成15年3月 竣工式

## 平成 23 年 4 月 リサイクル施設竣工

より一層ごみの減量と資源のリサイクルを推進し、循環型社会、環境行動都市の実現を目指す。

### 2) 北清掃センター施設の概要

焼却施設		リサイクル施設	
建築面積	4425.17㎡	建築面積	1568.84㎡
稼働	平15年4月～	稼働	平23年4月～
焼却能力	192t/日 (64t/日×3炉)	処理能力	46 t/日 (5h)
炉形式	全連続燃焼式 高温ガス化直接溶融炉 (シャフト炉)	・粗大ごみ 破砕	34 t/日 (5h)
排ガス処理	ろ過式集じん装置 (バグフィルタ) 活性炭吹込装置 乾式有害ガス除去装置	・かん類 選別圧縮	3 t/日 (5h)
余熱利用	蒸気タービン発電設備 (最大出力2400 k w) 場内給湯及び冷暖房 場外温水供給	・ビン類 選別	6 t/日 (5h)
		・ペットボトル 圧縮	3 t/日 (5h)

### 3) 環境保全対策

- ・排ガス公害防止基準

項 目	自主基準値	法規制基準値
ばいじん	0.01 g/m <sup>3</sup> N以下	0.08 g/m <sup>3</sup> N以下
塩化水素	50 ppm以下	約430 ppm以下
硫黄化合物	20 ppm以下	約2930 ppm以下
窒素酸化物	50 ppm以下	250 ppm以下
ダイオキシン類	0.1 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N以下	1 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N以下

- ・悪臭対策 プラットホームエアーカーテン、ピット内吸気、負圧維持
- ・排水対策 クローズドシステム  
(再利用水、炉内噴霧)
- ・騒音対策  
建屋遮音、吸音対策

施設について説明を受ける委員の様子



#### 4) 事業費概要

施設	焼却施設	リサイクル施設
総事業費	約 105億円	約 21億円
設計施工	日本鋼管(株)	JFE エンジニアリング(株)

#### 5) 平成30年ごみ処理量

可燃ごみ	不燃・粗大ごみ	分別ごみ(リサイクル)
36,813t	3,515t	1,383t

#### 6) 北清掃センター決算額(平成30年)

歳出 13億 789万円(職員給与費8,0002万円を除く)

歳入 1億4,803万7千円(スラグ、メタル、飛灰、再資源化売り払い金)

ごみ処理費用 約30,960円/t、約8,849円/人



施設内を見学する委員の様子



#### 【主な質疑応答】

Q 北清掃センターという名称がつけられた理由は。

A 以前は南清掃センターという施設があり北清掃センターとなった。

Q 熔融炉から発生したスラグの売却は順調か、また売却の管理は。

A 下水道工事の埋め戻しに使われるなど好調に売却されている、炉が点検で休止した場合には不足したこともある。業者が集積場所に引き取りに来て持っていく、職員は計量等の管理を行っている。(200円/tで売却)

- Q 溶融炉から発生する飛ばいはどうしているか。
- A 処理するごみの1%が飛ばいとなり、そのうち30%を埋立て、70%をリサイクルしている。
- Q 自治会等集団リサイクルは推進しているか。
- A PTA、自治会の紙の集団回収をしている。1kg4円の補助金を出しているが減少している。
- Q 処理方式の違いとコークスベット方式を採用した理由は。
- A 技術的な面は詳しくないが処理方式にはコークスベット方式と高温酸素方式があった当時、実績のあったコークスベット方式を採用した。
- Q 炉に対するダメージ軽減で生ごみなどの水切りを推奨しているか。
- A 生ごみの水切りは推奨している、生ごみ堆肥化等の取り組みも以前は行っていたが現在は行っていない。



北清掃センター 正面にて

## 高山市

【市政施行】 昭和11年11月1日

【人口】 87,779人（令和元年9月1日現在）

【面積】 2,177.61km<sup>2</sup>

【市の概要】 県北部の飛騨地方の中央に位置する。2005年に、周辺9町村を編入合併したことにより、面積が合併前の139.57km<sup>2</sup>から2,177.61km<sup>2</sup>になり、この合併により東京都とほぼ同面積、日本で最も面積が広い市町村となった。但し山林が市域の92%を占めているため、可住面積は限られる。

市の中心市街地には、江戸時代以来の城下町、商家町の姿が保全されており、その景観から「飛騨の小京都」と呼ばれている。古い町並みの二箇所が重要伝統的建造物群保存地区として選定されている。

観光ガイド等では飛騨高山と記され、全国各地から毎年多くの観光客が訪れている。また、最近では「日本の原風景を残す街」として紹介され、インバウンドによる海外からの観光客も急激に増加している。

### 【調査概要】

今回の調査は、当市における入曽駅周辺整備事業を見据え、JR高山駅における橋上駅舎化、東西自由通路についての建設の経緯、施設等の概要を調査することを目的に視察調査を行ったものである。

### 【視察内容】

#### 1) 高山駅周辺土地区画整備事業について

##### ・事業決定の経緯

JR高山線により、駅周辺が東西に分断されているところから、駅周辺整備事業の必要性が以前から唱えられていた。平成10年高山駅周辺土地区画整理事業を都市計画決定し、土地区画事業整備、駅前広場整備、区画道路整備等、これらの事業効果を高める上で、関連事業として東西自由通路の整備、駅前広場、公園、駐車場、駐輪場、国で行う合同庁舎の整備等を関連事業として、一体的な整備が行われ、併せて、商業・業務施設の拠点的な整備と良好な住環境の整備を行う。

8.59ha、施工期間は平成10年度から平成31年度。総事業費約131億円を費やした。平成30年度に換地処分を終了。当該事業の中で、JRアンダーパス事業、23億円が平成21年に竣工し開通した。

・事業費の内訳

都市計画道路等の公共施設整備費として、約40億円。建物・テナント等移設の補償費に約7.2億円、その他工事・調査費・事務費等1.9億円。

## 2) 事業の目的

本事業は、JR高山駅周辺に位置する高山市の玄関であり、飛騨地方拠点都市地域基本計画の高次商業集積拠点地区として位置付けられている。

本事業は、都市計画道路、駅前広場等の公共施設の整備と併せて商業・業務施設の拠点整備、良好な居住環境の整備を行い、当該地域の秩序ある発展に寄与し、飛騨地域における、高次商業拠点の形成を図ることを目的とした。



全員協議会室にて

西口で説明を受ける委員の様子

## 3) 事業概要

### ①高山都市計画事業高山駅周辺土地区画整理事業

総事業費約13.1億円、施工面積8.6ha、減歩率15.83%、施工は平成10年～平成31年度（22年間）、整備内容としては、都市計画道路1.2Km、区画道路1.4Km、東口駅前広場約5,500㎡（交通広場約2,400㎡を含む）西口駅前広場約3,400㎡。

### ②高山都市計画事業高山駅周辺土地区画整理事業

JRアンダーパス（市道 花里昭和1号線）

事業費約2.3億円 施工は平成17年度～平成21年度、施工延長210m、全体幅員11m。

### ③高山都市計画道路事業8・7・1号 高山駅東西線整備事業

総事業費約4.2億円：内訳（JR負担は1.8億円）、自由通路1.6億円、橋上駅舎2.0億円、仮駅舎等6億円。

<自由通路新設及び橋上駅舎化工事>

事業主体	高山市
発注監理	東海旅客鉄道株式会社

設計者 JR東海コンサルタンツ株式会社  
 デザイン監修 株式会社内藤廣建築設計事務所  
 施行者 高山駅改築工事共同企業体(JR東海建設(株)、(株)熊谷組)  
 都市計画道路高山駅東西線(東西自由通路)、延長約120m(階段含む)、幅員6m、エレベーター2基、(東西各1基)、エスカレーター4基(東西各2基)、多機能トイレ1ヶ所(東口)、デザインの工夫あり、祭り屋台の内装を展示、24時間利用可、設計は内藤氏(東京大学名誉教授)。  
 JR高山駅(橋上駅舎)、面積約1,900㎡、エレベーター2基、(各ホーム1基)、エスカレーター2基(各ホーム1基)、多機能トイレ1ヶ所(東口)

<自由通路内装展示屋台作成>

事業主体 高山市  
 設計監理 株式会社内藤廣建築設計事務所  
 製作者 高山・祭屋台保存技術協同組合

平成25年: JR東海と高山本線自由通路新説及び橋上駅舎化工事に関する  
 工事協定締結。

平成26年: 仮設駅舎建設。

平成27~28年: 本工事を行う。

平成28年10月: 供用開始。



西口駅前広場整備(区画整理費を除く):

2億円。キャノピーの整備等

東口駅前広場: キャノピー、モニュメント、ベンチ等 駐車場、駐輪場、6億円(区画整理費を除く)

交流広場駐車場、駐輪場、公衆トイレ等

・高山周辺まちづくり協議会

高山駅周辺まちづくりに関して高山市の顔としてふさわしい公共施設の整備、都市景観整備等を総合的に検討するために平成15年に設置し、29年まで約20回開催された。自由通路などの公共施設等委員により検討した成果。今後も官民一体となり、まちの魅力ある整備を行いたい意向がある。

4) 事業に対する評価

アンダーパスによる交通渋滞の解消。

概ね、構想どおり進行し完成をみた。



## 総事業費内訳一覧

区画整理事業

単位：億円

全体事業費	130.8
都市計画道路・区画道路・特殊道路	35.7
公園・緑地・駅前広場	4.0
移転移設補償費	72.0
その他工事・調査設計等	19.1

関連事業

単位：億円

全体事業費	78.9
自由通路	16.0
駅舎	20.0
仮駅舎等	6.0
西口駅前広場	2.0
東口駅前広場	6.0
交流広場・駐車場・駐輪場等	10.0
用地費・補償費等	18.9

### 5) 問題点

事業期間が長いことの弊害があり、特に相続等により複雑化された。

仮換地の土地の売買に関する理解が不十分であった。

全体的には、バリアフリーがなされていない箇所も一部存在する。

東口だけに施設が集中し、各方面に支障をきたした。

駅周辺の歩行空間が少なかった。

観光シーズンや特急列車到着の際は駅前に侵入できない車両が周辺道路に溢れ、常に渋滞の原因になっていた。

### 【主な質疑応答】

Q 権利者は何人いたか。

A 62名、全筆数279筆が仮換地により93筆になった。

Q まちづくり協議会のメンバー構成、人数の変遷は。

A 学識経験者、国・県・市担当者、商工会議所、社会教育連絡協議会、うるおいのあるまちづくり審議会の関係者、不動産業、公共交通事業者（バス・タクシー）、地権者、警察関係者、町内会長等で構成。必要に応じて検討部会を設

け、メンバーには参加をしていただいた。人数は30名から20名程度で変遷しながら活動が継続された。

Q 駅利用者のニーズに答えられたか。

A おおいに反映できたと思う。

Q 議会への説明としてはどのように行なったのか。

A 駅周辺整備特別委員会へ事業に進捗がある度に行なった。

Q JR駅舎の1.8億円を負担した理由は請願駅であったためか。

A 既設駅舎を再築しようとした場合の工事費から既設駅舎の減価償却分を除いた額を負担していただいた。

Q 事業総額等については債務負担行為として議決案件となったか。

A 金額の大きいものは議案として議場で説明を行い、詳細な部分については委員会で説明を行い、議決となった。全体としての債務負担行為は行っていないが、駅舎等の複数年かかる施工については債務負担行為をした。一般的な工事については継続費を組んで対応した。として対応をした。

Q 特別委員会の構成は。

A 一部の会派のみでなく、ほぼ全ての会派から構成されていた。

Q 高山駅の一日の乗降客数の平均は。

A 3,150人/日になります。

Q 区画整理事業の費用は、見込みどおりであったか。

A 概ね予定した金額で納まった。118.2億円で想定し、結果130億円であった。

Q 駅周辺の電柱は整備に合わせて地中化したのか。

A 古い町並みへの景観、防災の観点から、今回の整備で地中化した。

Q 駅前に建物を建てる際の制限等はあるのか。

A 高山市景観計画により、色や高さについては制限がある。



以上が視察の概要であり、報告いたします。